

## 大阪交響楽団 さらに進化へ

大阪交響楽団の音楽監督・児玉宏  
=写真=が、今年度いっぱいの任期を、来年4月から5年間延長した。奏者の個性を引き出す躍動感ある音づくりで楽団の水準を上げてきた。「今放り出すのは、虫歯治療で穴だけ開けて逃げ出す歯医者のようなもの」と話す。

力で自分の音にまとめあげるのではなく、楽団員の自発性を尊重する指揮者だ。2008年から音楽監督として大響と向き合い、「埋蔵されているエネルギーは、まだまだある」と感じている。任期延長を決めたのは「楽団員が作りたい音楽に僕がどこまで協力できるか、もう少しやってみたい」から。

ミャスコフスキーの交響曲第24

番、プフィツナーの交響曲第2番……。

来年度のプログラムも「知られざる演

目」路線は引き継ぐ。名曲として市場で定着していることと音楽的な価値は、必ずしも比例しない、という発想からだ。正指揮者の寺岡清高、首席客演指揮者のキンポー・イシイ=エトウと議論しながら、半年かけてプログラムを練った。

次の5年間の狙いは「価値判断の基準を、オーケストラの中につくる」こと。「私たちは何を大事にするオーケストラなのかを固めたい。僕の次の音楽監督はこんな人に来てほしいと、楽団員の中に要求が生まれるような」

(星野学)

児玉宏・音楽監督 任期5年間延長

